

し、労働者の賃銀をフラン購買力を増加すると豪語したにそのかわらば、一年有半の今日労働者の賃銀はより一七十七人の失業者は、物價の値上りと飢饉線上にオカレ賃銀値上り時間短縮の要求を掲げた労働者のストライキは、全米をユリ動かし、今やルーズベルトの威威は傷つけられるに至った。

欧州の資本主義国も亦然りである。フランスではバイヨンヌ市営賃屋を設立するにあつて、四百万ポンドの不正債権がシヨウタン内閣の商相と共謀して発行されたことが暴露され、二月二十七日共産党議員を中へに学生、市民官吏の打倒既成政治家の一大示威が行なわれ、大騒動を惹起した。終りにシヨウタン内閣は倒れて、ダラネイ内閣に変わった。三月六日から再び大騒動となり、ダラネイ内閣は九月に解任された。そして財政確立のために最適任者であるとして、ゾーメル内閣の出現となった。而しながら、財政的自暴は、つかな、輸出はへり、産業界の疲弊は甚だしく、大減價策、新税賦課によつて、国家財政の破綻を補つた。したが、一般労働大衆の激昂にあつて、終りに断念するに、たゞ労働者農民大衆の生活は愈々悪化しつつある。

ドイツに於けるナチスの一党一國主義の暴力がソラヌカれて、経済的不安の勢は去らず、労働大衆の生活苦からくるナチスへの不平不満を外国にフリ向けようとするために、聯盟脱退、軍華平革の要求で、一支部隊が、最近では労働大衆は、利刃となつて、離れると共に工場では左翼組合のゲレン、伸びヒト打倒、プロレタリアの勝利のため、の運動が、猛烈な勢で、マキ起されんとする。此他、英伊、埃、各資本主義国は、ソレを深刻な恐慌に、手の下し、やがて、インフレ政策、関税引上、殖民地半殖民地に対する、勢力の維持、市場争奪に、血まみれとなつて、資本主義国間の対立は、一九二四年の世界戦争の前より、ハルカニ、火鋭化し、フアシズムと軍備の拡張は、熱病的

に襲つてゐる。而して、労働大衆の貧困状態は、益々深められ、資本家共の反抗斗争は、力強く、欧米を揺り動かしてゐる。アメリカでは、ルーズベルト大統領就任の二週年を迎へて、自動車、鉄道、大洋渡止場、造船、山労働者、賃銀値上り生活改善を叫んで、斗争を起す。フランス、ドイツ、オーストリア、スペイン、キユーバでは、資本家地主の左め、政治政策反対、フアシヨ反対の労働者農民の大暴動が、ホッ奈してゐる。

斯くの如く、資本主義国が、恐慌の灰色に、スリソブされ、労働大衆の不平反抗斗争が、狂風のごとく、襲つてゐるとき、独リソヴエツトロシアでは、赤二五五五年計画が、着々と進められてゐるのである。

一月二十六日の茅十七回共大会に於ける、スターリンの報告によると、農業国より工業国へ、個人的農業から大規模な機械化された集団農業へ、愚智を非文化的な国から、教育のある、開いた文化へと、発展し、世界資本主義国の何れかの国民所得を激減してゐるとき、ロシアの労働者農民の所得は、一九二九年の二九、七、リオンルフルから、一九三三年には、五〇、七、リオンルフルへと、偉大に増加を遂げ、社会化された工業が、九、九、パーセント、農業が、八、四、五、パーセントと、なつてゐる。工業に於ける生産は、一九二九年の二百十億、二十五百餘万円から、一九三三年には、四百十九億、六、八、百、万、円に増大してゐる。かくの如く、労働者農民の生活は、一年と向上してゐるのと共に、欧州小協商国との間には、勿論、フランク、スイス、イタリアの間に、通商不平等條約を締結し、本年九月には、國際聯盟に加入し、東洋に於ては、日本、中国、ソビエツク、朝鮮、暹羅、フィリピン、北米を、渡り、九月の両西地、大暴風には、列國資本主義に先んじて、十、万、円、の救済金を送引し、これと、フアシヨは、平和政策の根を高く掲げて、國際外交界に、乗り出したのである。